# 春風秋雨相

江利川毅　県立大理事長

## 両陛下のパラオ訪問

# 平和への強い思い

去る4月8、9日、天皇皇后両陛下は戦後70年の節目に当たり、慰霊のためにパラオを訪問された。新聞や月刊誌、宮内庁ホームページなどを参照しつつ、今回のご訪問を振り返ってみたい。

天皇陛下は毎年、新年に当たってのご感想を表わしている。今年は大雪や大雨さらに御嶽山の噴火による災害の被災者へのお見舞い、4度目の冬を迎えた東日本大震災の被災者へのお気持ちを述べられた後、次のように述べられている。

「本年は終戦から70年という節目の年に当たります。多くの人々が亡くなった戦争でした。各戦場で亡くなった人々、広島、長崎の原爆、東京をはじめとする各都市の爆撃などにより亡くなった人々の数は誠に多いものでした。この機会に、満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本の在り方を考えていくことが、今、極めて大切なことだと思っています」

### ■美しい島の悲しい歴史

パラオご訪問ご出発に当たって天皇陛下は「終戦の前年には、これらの地域で激しい戦闘が行われ、幾つもの島で日本軍が玉砕しました。このたび訪れるペリリュー島もその一つでこの戦いにおいて日本軍は約1万人、米軍は約1700人の戦死者を出しています。太平洋に浮かぶ美しい島々で、このような悲しい歴史があったことを私どもは決して忘れてはならないと思います」と述べられている。

その日のパラオ国主催晩餐会における答辞ではミクロネシアを襲った台風の被害に対するお見舞いを述べられた後、「先の戦争においては貴国を含むこの地域において日米の熾烈（しれつ）な戦闘が行われ、多くの人命が失われました。日本軍は貴国民に安全な場所への疎開を勧めるなど貴国民の安全に配慮したと言われておりますが、空襲や食糧難、疫病による犠牲者が生じたのは痛ましいことでした。ここパラオの地において私どもは先の戦争で亡くなった全ての人々を追悼し、その遺族の歩んできた苦難の道をしのびたいと思います」と述べられた。

両陛下はご公務やご活動で極めてお忙しく、その間隙（かんげき）を縫って多くの方から丁寧に説明を受けられたようである。陛下のお言葉は常に具体的で気持ちが強く込められている。

### ■感激に打たれた拝礼

翌日、激戦地ペリリュー島で両陛下は「西太平洋戦没者の碑」に日本から持参された白菊の花束を供花され、深々と拝礼された。さらに慰霊碑の脇に進まれ、沖合のアンガウル島に向かって深々と拝礼された。私はテレビでそのお姿を拝見し、何とも言いようのない感激に打たれた。両陛下は「米陸軍第81歩兵師団慰霊碑」にも花輪を手向け拝礼された。関係者の感激の言葉を新聞で読みながら、このご訪問が実現できて本当に良かったと心から思った。

天皇陛下御在位10年の節目の年、私は首席内閣参事官として首相官邸で勤務していた。小渕内閣は御在位10年の記念式典を行うことを閣議決定し、私は事務方の責任者となった。式典参加者に天皇陛下のご公務ご活動の実際をよく知っていただきたいと思い、即位後のさまざまな映像記録を取り寄せ、それを編さんして10分余りのビデオを作製した。内閣による初めての記録映像の編さんである。この編さんを通じて陛下が、象徴天皇としていかにあるべきかに御心を砕かれ、国民と共に、国民の中へ、国民に寄り添う、そういうお気持ちを持たれているように私は強く感じた。

### ■忘れてはならぬ四つの日

天皇陛下は皇太子殿下のときに、日本人として忘れてはならない四つの日があるとして、沖縄戦終結の日、広島と長崎の原爆の日、終戦の日を挙げられている。これらの日には黙とうをささげられているという。そのビデオには戦後50年（1995年）の「慰霊の旅」、長崎、広島、沖縄、東京都慰霊堂（東京大空襲の犠牲者）のご訪問や、その前年の硫黄島での慰霊も収載した。

戦後60年のときはサイパンを訪問され「中部太平洋戦没者の碑」、スーサイドクリフやバンザイクリフ、「マリアナ記念碑」（現地人戦没者の碑）、「第二次世界大戦慰霊碑」（米国人戦没者の碑）に供花拝礼され、当初の発表にはなかった「おきなわの塔」「韓国平和記念塔」にも立ち寄られ拝礼された。

ご出発に当たってのお言葉では次のように述べられている。

「海外の地において、あらためて、先の大戦によって命を失った全ての人々を追悼し、遺族の歩んできた苦難の道をしのび、世界の平和を祈りたいと思います」

（次回は6月1日）